



ニュースレターVOL.23
2018年11月 発行

「わっと」は当協議会の愛称です。
人権ってなに？の「What」と人権の輪が「わっと」
広がってほしい願いが込められています。



〒562-0014 大阪府箕面市萱野1-19-4
箕面市萱野中央人権文化センター内
TEL/072-722-2470 FAX/072-734-6509
E-mail jinken-jimu-minoh@silk.ocn.ne.jp
http://wat-minoh.sakura.ne.jp/

「前田功事務局長を偲ぶ会」に寄せて ～トムさんを偲んで～

箕面市人権啓発推進協議会
会長 岡本 克己

原稿を引き受けたもののあまりに多くの事柄が頭をかすめ何から書いて良いか悩みましたが私の中で特に印象的なことを記して皆さんとともに思い出を共有できたらと思います。(以降、故人をトムと呼ばせてもらいます。)

まずは日頃の言葉を交わす時の合い言葉的なことから、「おうおう一緒や」とうなづいていただく方も多かろうかと思いますが、「よっしゃ！」(機嫌良く物事順調)、「それでいいのかな？」(意見がくい違った)、「頼むで！」(激励か頼み事か?)、他いろいろありますが、で最後に「おかもっちゃん」がきます。これがトムと話している時の締めめやりとりです。この会話パターンは久しぶりに一緒に仕事をするようになった短い間も立場の違いこそはあれ変わることはありませんでした。

さて、私がトムと出会ったのは第二中学校に初任者教員として赴任させてもらった1972年のことです。この年に二中教職員は生徒の一人が書いた被差別部落(北芝)や在日韓国・朝鮮人に対する差別文書をめぐって教育内容が厳しく問われていました。当時部落差別については何の認識もなく訳もわからない状態でその話し合いの渦中におりま

した。ただ北芝の皆さんの怒りを感じとるだけでしかなかった私が未熟ながらも部落問題認識を一枚一枚積み重ねるように深めていったのは当時の青年部を担ったトムをはじめとする北芝のみなさんのおかげだったと思います。

私にとって強烈なインパクトとなった出会いからスタートして以降、特に部落解放運動としての教育改革の先頭にいたトムとの学校教育との関わりをめぐる議論は、子どもたちの将来像について、こども会活動、身につける学力、親の生活や子どもへの関わり方等々多方面にわたって喧々がくがくを繰り返しながら箕面的にも少しずつ課題をみつめ直すことができ、多くの先生方との研究活動を経て、人権教育の内容が広め深まることで今日の人権教育の展開につながっていったと自負しております。

学校教育との関連で忘れられない思い出がもう一つあります。

1988年の「箕面市同和教育に関する生活学力実態調査」の実施です。

この調査は箕面市教育委員会が市内の小学校4年生・5年生と中学校1年・2年生について学力と生活の関連をクロス調査し、子どもたちの状況を4階層で把握し、学校での指導や生活の改善に役立てようとするもので大阪府下で初めての調査となりました。今でこそ全国学習学力調査や各自治体独自の調査がありますが、当時は過去の文部省学力テストに対する反対の余波があり、当時の箕

面市同和教育研究会（現、箕面市人権教育研究会）事務局を担わせてもらっていた私も同じような認識でいました。この調査の提起に市内教職員の間に騒然とした雰囲気になったことをよく記憶しています。調査の実施に向けた関係者会議の席上での、トムの第一声は「先生たちはうちの子はよく低学力と口にするがその根拠は何なん？」でした。経験則で十分把握していると思っていた者にとって今で言う「エビデンス」を問うトムの声に対する答えは無言で返すしかありませんでした。調査実施の実質責任者であった大阪大学の池田寛教授の「各校における低学力に苦しむ児童・生徒の学力状況と生活実態とのクロス相関を見る中で実態を把握し指導の手立て改善に役立てることの大切さ」の指摘を受けての各校への啓発と、調査に伴うプライバシー保護の厳格な取り扱い手続きを整える中で調査は実施されました。「しんどい子を真ん中に据え」を柱に競争主義を排してきた同和教育が真逆の取り組みの中で家庭学習環境の不備や経済格差に苦しむ子どもたち、親の生活実態を把握し指導の手立て、教材のあり方を考え学校づくりのベースにするという箕面市的な取り組みが成り、これ以降大阪府内の多くの自治体に広まります。まさに大阪大学の研究チームを引っ張り込み（？）教育行政をしてこの動きを作り出した北芝の子どもたちにかけるトムの強い思いと政策実行力の成せるわざで脱帽させられました。

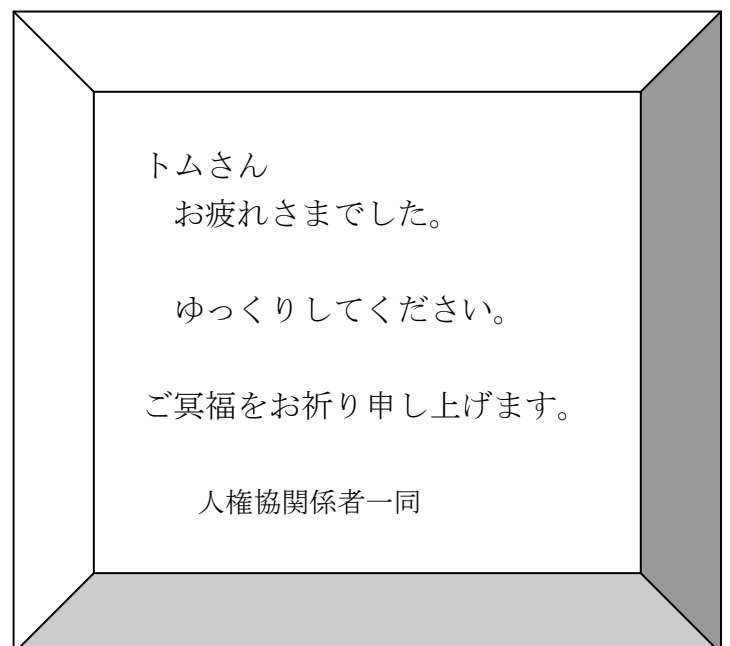
この取り組み以外にも、北芝の歴史や人々の思いを被差別の側から明確に残そうとした「どぶとい」「きょうだい」「血涙の墓標」の3部作及び箕面市史に位置付けられた部落史（北芝の歴史）の作成、また、障がいのある子どもたちの進路保障をめざした「そよかぜの家」の創設等ダイナミックに課題を成し

遂げていく実行力にはものすごいとしか言い様がなくまさしく部落解放運動で育った北芝のトムでした。（少しほめすぎか？、トム）

最後になりますが、お互い若かった時の東京での10万人集会、その後のデモ行進の際のシュプレヒコールと闘いの歌をリードするトムのスピーカを通じた張り力のあるすばらしい声が今もしっかり記憶に残っています。

部落差別解消に向けた拠点施設、「らいとぴあ21」の前身である、萱野青少年会館や萱野文化会館の中で見かけていたヘビースモーカーのトム、会館勤めだった頃、昼ご飯を食べに言った際の何でも醤油や七味をぶっ掛けの塩っ辛い嗜好品好きだったトム、お互い飲んべえで一緒に飲みに行けば午前様になった日々、良くも悪くも数限りのない思い出の中でトムはいます。

私も今年で古希、もうしばらくしたらそっちへ行ってまた飲めることを楽しみにして、そしてトムが今はもう先に逝っている福岡の光枝と一緒に飲んで思い出話に花を咲かせてくれていることを祈って。



「平成30年度男女共同参画フォーラム」

ワークショップ参加報告

昨年9月、私たちは沖縄スタディーツアーを実施し、辺野古の浜のテントで埋め立て反対の座り込みをしていた安次富さんから「あなたたちは大阪でがんばって」と言われ1年。沖縄で出会った方々からお聞きした日米地位協定によって引き起こされている米軍基地と性暴力の問題、健康問題、貧困、自然破壊などのお話のなかで、特に「基地と性暴力」について幅広く活動されている高里鈴代さんからお聞きした内容は私たちの活動のなかでの重要な意味をもった。それについては高里さんに許可を戴き、冊子にまとめ、売り上げを活動支援のための寄付をすることとした（本誌VOL.22 p4で報告）。

今回、その学びを全国の人と共有するため埼玉県にある国立女性教育会館（NVEC：ヌエック）で行われた全国規模の男女共同参画フォーラム（8月31日～9月1日）において「スタディーツアーで得た沖縄の問題を地域で伝える～性暴力についていっしょに考えてみませんか～」というタイトルでワークショップを行った。



前日の交流会でPRを行い、当日は全国か

ら26人の方に会場にきていただくことができた。沖縄から来られた方も3人おられ、最近の沖縄の情報も聞かせて戴くとともに、他の参加者の方々との交流も活発にして戴き、とても有意義な時間となった。

普天間基地の隣の町に住んでおられる方が、「6月12日、米大統領のトランプが北朝鮮を訪問した日、一日中、オスプレイ2、3基が連なって着陸し、その騒音はものすごいものだった。いつ落ちてくるかわからない不安な一日だった」と話された。そのような状況は、本土に住む私たちにマスコミは全く知らさない。私は、昨年はじめて沖縄に行き、観光地図には載っていない多くの米軍基地のある沖縄の住民の生活環境を肌で感じ、様々なことで沖縄に大きな負担をかけていることを知り、胸の痛む思いをしたことを改めて思い出した。



『沖縄のおかれている様々な問題は、他人事ではなく自分のこととして考えていくということが大切』ということを経験した。今回のワークショップで伝えることができたのではないかと考える。また、私たちが訪問した場所以外のおすすめの場所として、参加者から「ちびちりがま」「嘉手納資料館」「恨の碑」など教えて戴くことができた。ぜひ次回の訪問先にしたいと思う。

（男女協働参画啓発研究部会 門田加奈）

人権啓発学習会
第三回かたりべの会

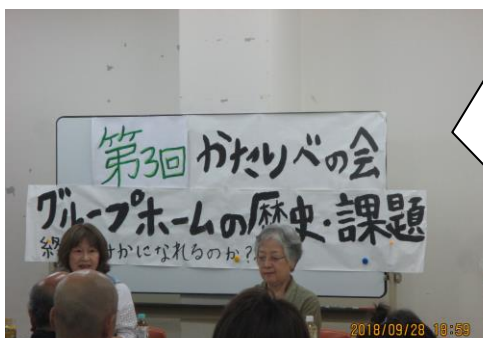
【グループホームの歴史・課題】

障害者市民問題啓発研究部会

9月28日（金）に、障害者福祉センターささゆり園で、人権啓発学習会として第三回「かたりべの会」を開催しました。

かたりべの会とは、障害者問題や人権問題に取り組んでこられた諸先輩方の経験を語っていただき、温故知新を一緒にたどることで、これからのヒントやエッセンスにできればという思いで始まりました。

今回は、「グループホームの歴史・課題 ～終のすみかになれるのか？～」をテーマに、3名の方々に登壇していただきシンポジウム形式で行いました。



表題は部会員である
平めぐみさんの
自筆です。

30年前に、北摂で初めてのグループホームをつくられたパネリストの今井綾子さん・岸本文代さんからは、当時の想いや様子をお話して頂きました。当初は「親亡き後が心配」という思いから、北摂に施設をつくるためバザーなどで資金を集めていたそうですが、箕面市は施設をつくらないという姿勢であったことや、地域生活支援事業が出来、箕面市職員がグループホームの立ち上げに協力的だったこともあり、グループホームの開設に至ったそうです。当時は、障害者に家を貸し

てくれるところはなく、親の会の会員の持ち家（下宿生が住んでいる）で始められ、また、そこに住んでいる下宿生に「家賃はいらさないから手伝ってね」など、柔軟性のある運営をされていました。制度が細かくなって、ひとに合わせた運営がしづらくなった現在とは違い、制度の「すき間」があったことで、ひととの関わりや繋がりができていたようです。そして、後半に岸本さんが「(30年前よりグループホームで自立生活を始めた)娘は49才になるけど、まだ伸びている。子供は離さんといけない。親も子も若い時に離し、自由や冒険をいっぱい経験させる。もし、問題が起きたら一緒に謝ったらいい。」と話された言葉には、娘さんがグループホームに入った頃、毎日さみしくて泣いていた日々を乗り越え、30年経ったいま、その月日以上の重みを感じました。

また、コーディネーターの細谷明代さんからは「課題は多いけど、やり続けること。そして、思考がストップしないことが大事。」と、話されていました。

3名の方々の、豊富な経験があふれだした、とても充実した時間になりました。



※コーディネーター・パネリストのプロフィール

●コーディネーター 細谷明代さん NPO法人プラスWe理事長。障害者の地域生活支援を行うNPO法人で15年勤務し、退職

後NPO法人を設立。2017年1月に障害者のグループホームを開設。

●パネリスト 今井綾子さん 「手をつなぐ親の会」へ平成元年に入会。現在副会長。娘の今井裕紀子さんは、昭和52年生まれ。ダウン症。ぐりーんぐりーん勤務。

●パネリスト 岸本文代さん 「手をつなぐ親の会」へ昭和54年に入会。娘の岸本和子さんは、昭和45年生まれ。脳性まひ。障害者事業団勤務。

人権協の各部会は、それぞれのテーマのもと、活発に活動をしています。
地区協議会や構成団体での取り組みについても皆さんに啓発できればと思います。行事や取り組みをされた時はその様子をお知らせください。

予告

多民族フェスティバル 2018

11月10日(土) 10:00~16:00
小野原公園にて
(問合せ先)
箕面市国際交流協会
TEL:072-727-6912

人権協在日外国人問題啓発研究部会はトッキの会とともに「韓国・朝鮮の遊び」コーナーを担当します。遊びに来てください。

詳しくは「箕面市国際交流協会のHP」をご覧ください。



予告

「第33回 みのお市民人権フォーラム」

【日時】

12月8日（土）

全体会（グリーンホール）

開場 13:00

開演 13:30～

（オープニング）韓国・朝鮮文化の紹介（トッキの会）
（講演）

テーマ「人権で考え 人権を生きる」

講師 中山千夏さん（作家）

12月9日（日）

分科会

第1分科会：地方自治

「豊かな箕面の創造」に向けた多様な人権尊重の活動とは
識字・日本語教室の現状から共に考える

第2分科会：部落

私の「ふつう」、あなたの「あたりまえ」
差別を“する”のはだれ？

第3分科会：女性

この国ってヘン！
女子のもやもやを言葉にしましょう

第4分科会：子ども（教育）

I mOK. 「子どもにとっての安心とは」
子どもの「育む環境」を考える

第5分科会：障害者

障害者の運動から考える
人を大切にするあり方と私たち
相模原障害者殺傷事件から2年

第6分科会：在日外国人

その時、何がおこったのか！！
大阪府北部地震を振り返って



各分科会の開始時刻
や開催場所等につつま
しては、チラシをご覧
ください。

編集後記

9月27日 国際人権規約連続学習会「カミングアウトと向き合う」に参加した。「カミングアウトとは見えない属性をいうこと」「性的少数者であることを打ち明けることは、打ち明ける人と打ち明けられる人の関係の再構築を要請すること」という講師の方の一言は日頃の自分自身の人権感覚を問われていると感じた。トムさんがよく言っていた「人権感覚は身だしなみ」という言葉を思い出した。